

発掘調査報告書の公開

宮崎敬士（熊本県教育庁）

How to Publish Excavation Reports on the Internet
Miyazaki Takashi (Kumamoto Prefectural Board of Education)

・倉庫／Repository・インターネット公開／Internet publishing
・発掘調査報告書／Excavation report・簡単で便利／Simple and convenient

はじめに

埋蔵文化財の発掘調査報告書をインターネット上で公開する。より多くの人が、より簡便に、いつでも発掘調査成果を利用できる仕組みとして、情報化社会ではこの方法が最も有力視されています。

インターネット上に倉庫をつくり、発掘調査報告書をおさめ、検索・閲覧できるようにする。これが、埋蔵文化財の発掘調査報告書をインターネット上で公開するための設計図です。広い倉庫と使いやすいルールを整えれば、あとは在庫量が利用者の関心をひく鍵となります。「なんでもあります、そろいます」ほど素敵なフレーズはありません。

では、誰がインターネット上の発掘調査報告書を増やし、利用者の満足度を向上させるのでしょうか。

最もシンプルな答えは、発掘調査報告書の発行者ではないでしょうか。つくった人が棚におさめ、つかう人が求めて持ちかえる。地域物産館の流通構造と同じ仕組みがインターネット上にも展開し、より多くの人に、より簡便に、いつでも利用できるよう

に、発掘調査報告書を流通させているのです。

この文章は、熊本県教育庁が発掘調査報告書をインターネット上に公開した手順と効果、その作業の手軽さと自由度を紹介することを目的として記しました。

1. 報告書の倉庫をえらぶ

熊本県教育庁は、発掘調査報告書をインターネット上で公開する方法として「全国遺跡報告総覧」への参加を選択しました¹⁾。さまざまな公開方法の中から全国遺跡報告総覧を選択した理由は、次の3点にまとめることができます。

まず、利用者にとってワンストップとなっていることです。ワンストップ（英：one-stop service）とは「1か所で何でもそろえること」であり、さまざまな手続きを一括して行える仕組みです。いくつもの発掘調査報告書を探している利用者也、ここ1か所で用事が足りるような在庫量が全国遺跡報告総覧にはおさめられています。

次に、高い検索能力が整えられていることです。書名や発行機関など発掘調査報告書の書誌的事項の他、遺跡情報、PDFファイル内のフルテキストデータも対象とした検索能力が全国遺跡報告総覧には備わっており、しかも適時更新されています。利用者は、膨大な在庫量の発掘調査報告書の中から、すばやく、自分にあった方法で、目的の発掘調査報告書を探しだせるのです。

デジタル化した報告書の公開方法

全国遺跡報告総覧を選択した理由



理由1	ワンストップ
理由2	検索能力
理由3	保守機能

最後に、安心できる保守機能が備わっていることです。全国遺跡報告総覧のシステムと、そこにおさめられた発掘調査報告書は、正常な状態を維持しつづけるよう保守されています。おさめられた発掘調査報告書が勝手に改変されないよう倉庫を守るのは、利用者に正確なデータを提供する第一歩です。

このように、利用者が簡単に、はやく、正確に報告書を閲覧することを要件として、これを満たす全国遺跡報告総覧への参加を選択しました。

2. 報告書を登録する

熊本県教育庁は、平成27年度に正味10日程の期間で272冊の発掘調査報告書を全国遺跡報告総覧に登録しました。登録に必要なのは、各報告書の抄録データとPDFファイルです。その収集や作成といった実作業にあたったのは1名、発掘調査等のない日をつかい、3次にわけて登録をすすめました。

はじめに、すべての発掘調査報告書の抄録データを作成しました。書誌事項、所収遺跡、遺跡概要を表計算ソフト（Excel）にまとめ、一括登録の準備をします。各報告書の抄録データは、近年の刊行であれば巻末の報告書抄録を転記し、昔年の刊行であれば都道府県市町村教育委員会、全国埋蔵文化財法人連絡協議会、奈良文化財研究所がすすめてきた報告書抄録データベースを利用しました。いずれの場合も、既存の電子データを漁り、コピー・アンド・ペーストでデータ収集し、検索・置換により表記を統一しました。

次に、PDFファイルの準備です。手始めとして、すでにPDFファイルが作成されている発掘調査報

全国遺跡報告総覧への参加日程

時期	内容	手続き
9月初旬	全国遺跡報告総覧への参加の検討	参加伺い、課長決裁
中旬	課長から事務局あて申込み	申込書、申請書を送付
下旬	事務局から文化課あて参加承認	ID通知書、マニュアルを受領
12月初旬	準備	素材の収集、リスト作成（3日）
	手続	実施伺い、課長決裁
	作業	アップロード（半日）
	広報	熊本県HPに記事掲載
	通知	各市町村教育長あて通知
12月8日	第一次公開（77冊）	
12月中旬	準備	刊行物からPDF作成（2日）
	手続	実施伺い、課長決裁
	作業	アップロード（2時間）
12月24日	第二次公開（87冊）	

告書を対象として作業をすすめ、先述の抄録データ作成とPDFファイル収集に3日、全国遺跡報告総覧へのアップロードに半日をかけて、77冊の発掘調査報告書を登録しました。これが第1次登録です。第2～3次は、発掘調査報告書をスキャンしてPDFファイルを作成しました。古びた発掘調査報告書の背を断ち、バラバラにしたページをスキャナーにかけてPDFファイルを作成する作業は、裁ち、揃え、置くといった動作の反復です。シンプルな動作の反復作業だったので習熟度もはやく上がったのでしょう。第2次はPDFファイルの作成に2日、アップロードに2時間をかけて87冊を登録し、第3次はPDFファイルの作成に4日、アップロードに2時間をかけて108冊を登録しました。

このように、平均27冊／日ほどのペースで裁ち、揃え、置く動作を繰り返えし、正味10日ほどで272冊の発掘調査報告書を全国遺跡報告総覧に登録することができました。それぞれの発掘調査報告書にかかる作業時間は10分／冊ほど、これなら小さな空き時間をみつけて取りくむこともできそうです。

3. はやく簡単に作業する

発掘調査報告書を全国遺跡報告総覧に登録する作業は、シンプルな動作の反復であるがゆえに、つつい細かく凝った要素をつけ加えたくくなります。例えば、図版をより高精細に収録しようとしたり、参照部分にハイパーリンクを埋めこんだりする誘惑にかられ、つついPDFファイルのサイズと数を増やしてしまいがちです。しかし、インターネット上に

デジタル化の方法

種別	時期
報告書の原稿から作成	印刷と同時
刊行された報告書から作成	刊行後、適時

倉庫をつくり、発掘調査報告書をおさめ、検索・閲覧できるようにする当初の目的と、これらの誘惑とは一切関係がありません。利用者にとっては、PDF ファイルのサイズと数が増えれば増えるほど使い勝手は悪くなるのです。

発掘調査報告書を全国遺跡報告総覧に登録する作業にあたり、いちばん重要なのは、閲覧用の PDF ファイルをつくるという目的を堅持することです。そのため、2つのことを意識して作業をすすめました。第一は刊行物（底本）と PDF ファイルを一意的に対応させること、第二に全国遺跡報告総覧の仕様に一致するよう PDF ファイルを最適化すること、以上の2つです。発掘調査報告書と PDF ファイルを1対1で対応させるのは、利用者は刊行された報告書ベースで検索・閲覧をおこなうためです。分冊された報告書の場合でも1対1の対応関係を保ち、3分冊の報告書には3ファイルの PDF を登録することとしています。

これから刊行する発掘調査報告書の場合、印刷仕様書に PDF ファイルの納品をくわえれば、閲覧用 PDF ファイルをつくれます。「全国遺跡報告総覧マニュアル」²⁾に記された推奨仕様の PDF ファイルは、印刷屋さんが DTP ソフトのボタンを数回押すだけで作成できるので、報告書の印刷に PDF 納品が加わっても金額はほとんど変わりません。自治体によっては CD 代金を加算した例もありますが、この水準にまでコストがこなれた技術となっているのです。

いままでに刊行された発掘調査報告書の場合、PDF ファイルがあれば「全国遺跡報告総覧マニュアル」に記された推奨仕様に調整し、PDF ファイルがない場合は推奨仕様にあわせて発掘調査報告書をスキャンすれば、閲覧用 PDF ファイルをつくれます。

発掘調査報告書をスキャンする場合は、スキャナーの能力にあわせて PDF ファイルを作成せざるをえません。たとえば、A4 スキャナーなら A3、A3 ノビなどの折込みは A4 サイズに裁断してスキャンします。印刷して貼りあわせれば折込みページを復

元閲覧できますし、テキスト検索にはまず影響しません。一部色刷りの発掘調査報告書なら、一部色刷りのページも白黒モードまたはグレースケールモードでスキャンすることをおすすめします。単色ページと多色ページを各個にスキャンして結合する手間は、担当者のモチベーションを容赦なくうばい低下させます（※個人の感想です）。また、PDF ファイルは OCR 処理が施されているものを使用することとなっていますが、OCR テキストの校正作業は省略することをおすすめします。PDF ファイルがあれば再 OCR ができますし、OCR 技術はどんどん高度化しています。

最後に、熊本県教育庁では、PDF ファイルに電子書籍の奥付をつけています。奥付には、底本を明示し、閲覧を目的としていること、底本がおさめられた場所を紹介しています。そして、書名、発行者情報、制作日といった電子書籍の書誌事項を記しています。合併した市町村では、書誌事項に加えて現時点の出土文化財の保管状況、その公開・活用の窓口を記せば、電子書籍の奥付は発掘調査の周辺情報をアップデートする方法としても利用できるのではないのでしょうか。

4. Web 公開した効果

発掘調査報告書を全国遺跡報告総覧に登録してインターネット上に公開した効果を、ここで紹介しましょう。

利用者への効果は、広い地域の多数の発掘調査成果を、はやく簡便に検索・閲覧できることです。これに、発掘調査報告書を容易に携帯できるなどの二次的な効果がくわわります。登録者への効果は、発掘調査成果をはやく簡便に提供し、その実績を統計として把握できることです。これに、書架を節減し効率的な空間利用ができるなどの二次的な効果がくわわります。このような効果は、災害発生時にはつきりとあらわれます。非常時であればあるほど付加要素がそぎ落とされ、先鋭化したかたちでものがあらわれるからでしょう。



平成28年（2016年）4月14日21時26分そして4月16日1時25分に震度7の熊本地震が被災しました。熊本県文化財調査報告の全国遺跡報告総覧への登録が一段落した2週間後のことです。前震発災直後から熊本の地震履歴が報道され、本震後にはマスコミや研究者から地震痕跡の調査成果についての問合せが増えてきました。しかし、発掘調査の写真や報告書を収蔵している文化財収蔵庫は被災し、報道機関の現地取材の下調べや研究者の検討資料の閲覧に応えられる状況ではありませんでした。そんななか、様々な人々の多様なリクエストに黙々と応えていたのが全国遺跡報告総覧です。熊本地震が被災した平成28年（2016年）4月にはファイルダウンロード数が高騰し、5月でも通常の2倍を数え、6月に2,004件、7月の1,516件をへて通常ダウンロード件数に復帰しています。利用者の注目をあつめた遺跡も、熊本地震発災直後には「熊本城」、「装飾古墳」といった熊本を代表するカテゴリーとともに、地震痕跡を

まとめ

全国遺跡報告総覧の特徴

- 1 あらたに「登録作業」を加えるだけ
- 2 大変なのは「最初の」既刊報告書登録だけ
- 3 1冊/10分の処理で、調査成果を世界に発信！



記録した「小野原遺跡群」、「二子塚」、「石の本遺跡群」などの発掘調査報告書がダウンロード上位になっていました。

熊本地震の発災直後で復旧困難なフェイズでも、多くの人が簡便に被災地熊本の発掘調査成果を利用する仕組みとして、全国遺跡報告総覧は機能していたのです。

5. 全国遺跡報告総覧の特徴

全国遺跡報告総覧は、より多くの人が、より簡便に、いつでも発掘調査成果を利用できる仕組みです。登録者は1冊あたり10分ほどの簡単な作業でインターネット上に発掘調査報告書を公開でき、利用者は広い地域の多数の発掘調査成果をはやく簡便に検索・閲覧できます。

これから刊行する報告書は印刷時にPDFファイルをつくり、いままでに刊行された報告書はスキャンしてPDFファイルをつくります。スキャンに必要な機材は断裁機とスキャナー。断裁機はカッターでもよいし、スキャナーは複合コピー機でもつかえます。そして、PDFファイル登録に必要な機材はインターネットに接続されたコンピュータ。いずれも官公庁では身近な備品といえるでしょう。

発掘調査報告書の閲覧サイトとしてすぐれた検索能力と安心できる保守機能がそなわった全国遺跡報告総覧は、あたらしい登録者が増えるほど、利用者にはより大きなワンストップの満足感がもたらされる構造をそなえています。

【補註および参考文献】

- 1) 宮崎敬士 2016「自治体における報告書デジタル化の取り組み」『文化遺産の記録をすべての人々へ！』全国遺跡報告総覧プロジェクト pp.23-26
<https://sitereports.nabunken.go.jp/16218>
- 2) 全国遺跡報告総覧プロジェクト事務局 2019『全国遺跡報告総覧データ登録マニュアル』 pp.1,6
<https://sitereports.nabunken.go.jp>